

## 第25回学術集会の報告

第25回学術集会在、2018年9月1、2日に、高知県立大学看護学部の長戸和子教授を学術集会長として、高知市文化プラザかるぼーとにて開催されました。看護学生を含めて759人の参加があり、大盛会のうちに終了しました。

『家族看護学のグランドデザインへの挑戦』をメインテーマとして、一貫したプログラムで、どの会場も満員、熱気にあふれていました。政策やビッグデータに着目した講演もあり、今後の家族看護学のビジョンと戦略を考える機会となりました。



学術集会長 長戸和子先生と企画・実行委員

## <メイン会場>

とても広いメイン会場でしたが、どのプログラムでも参加者が多く、聞き入っていました。

会長講演では、「保健医療2035」に示されているような社会の変化と課題をふまえたパラダイムシフトの必要性、個人、家族、社会を視野に入れた多角的ケアの視点が強調されました。

家族支援専門看護師として活動している関根さんの教育講演では、看護師は問題解決型の思考で考える傾向があるが、「あの家族は来て1時間くらいで帰ってしまい問題だ」ではなく、「1時間しかいらなくても来てくれる」という肯定的な視点、家族の強みを見出す看護の視点が必要と話されました。

家族看護を实践するうえでの困難や問題点を踏まえながら具体的な実践を提示され、家族看護についての多くの示唆を得ることができました。

## <交流集会>

交流集会8「現場実践力を高めるeラーニングを作るために—教える、学ぶ、学ぶ人を支える視点でのディスカッション—」では、現在開発中の家族看護eラーニングツールの概要の説明や現任教育でeラーニングを活用し、看護実践力を高める取り組みが報告されました。

また、深く「家族看護」が身に付き、実際の実践に繋がるようになるには、eラーニング自体やそれを取り巻く私たちの環境がどうなれば良いかについて、教える人の立場、学ぶ人の立場、管理者の立場など様々な立場から見た活発な意見交換も行われ、学びを实践につなげる仕組みの重要性や家族看護を学習する対象の特徴(病院のスタッフか地域のスタッフかなど)に合わせたプログラムの開発など、今後の家族看護eラーニングの発展にとっての貴重な提言が得られる時間となりました。

## <家族看護セミナー>

学術集会上に先立ち開催された家族看護セミナーでは、「家族看護エンパワーメントガイドライン」の活用方法について、事例を交えてわかりやすい説明が行われました。



示説会場



## <よろず相談>

第24回学術集会から始めた、家族支援CNSによる「よろず相談」は、今回も大好評でした。



交流集会の様子

